

Bコース(上限 50 万円)【提案書】 **【公開】**

提案名 ※25文字以内	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ in みなとみらい
グループ名 ※25文字以内	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ

【1】 提案グループの現在の主な地域社会貢献活動の内容及び最近5年以内の実績、またグループの紹介を記入してください。

私たち「視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ」では、視覚障害者と晴眼者が一緒になり言葉や想像力を使った美術鑑賞ワークショップを毎月一回実施しています。2012年6月から活動を開始し、都内近郊の美術館、植物館などで8回(内4回が横浜美術館での開催)のワークショップを実施し、155名の方にご参加いただきました。視覚障害者と晴眼者が会話しながら鑑賞することで視覚障害者にとっての美術鑑賞を実現します。また全ての人にとって言葉によって自由に印象や感想を語り合う、知識偏重ではない美術鑑賞の体験を実現し、広めたいと考えています。

ホームページ <http://www.facebook.com/kanshows>

【2】 助成を受けて行う活動の年間計画を記入してください。

月	内 容
4月	
5月	横浜美術館にて美術鑑賞ワークショップ開催
6月	カップヌードルミュージアムにて体験ワークショップ開催
7月	横浜美術館にて美術鑑賞ワークショップ開催
8月	横浜美術館にて美術鑑賞ワークショップ開催
9月	原鉄道模型博物館にて鑑賞ワークショップ開催
10月	横浜美術館にて美術鑑賞ワークショップ開催
11月	横浜美術館にて美術鑑賞ワークショップ開催
12月	横浜美術館にて美術鑑賞ワークショップ開催
1月	カップヌードルミュージアムにて体験ワークショップ開催
2月	報告書作成
3月	

【3】 助成を受けて行う活動の内容について、次の項目に沿って記入してください。

- (1)活動の内容 (2)活動の主催者及び参加者 (3)活動を実現するための方法 (4)時期 (5)場所
 (6)当地区で活動を行う、また応募の理由 (7)活動を行うことによる当地区へのメリット(効果)
 (8)その他、特徴やアピールする点

(1)活動の内容

「視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ in みなとみらいエリア」は、横浜美術館を中心としたみなとみらい地区の文化施設で、視覚障害者と晴眼者が言葉を介して鑑賞ワークショップを定期的を実施する計画です。障害者の受け入れに積極的に取り組んでいる横浜美術館などの協力をあおぎながらこれまで視覚障害者に縁遠かった美術や文化へのアクセシビリティを高めるとともに視覚障害者自身の美術鑑賞についてのニーズを掘り起こします。美術館だけではカバーしきれないユーザーのニーズをキャッチし、美術鑑賞ワークショップのプログラムに加えていくことで地域の文化施設と地域のユーザーを結びつけることが目的です。また実践の様子を報告書にまとめ、これまでにユーザーとみなされていなかったユーザーの新たなニーズを施設に伝え、施設とのさらなる連携をはかります。

(2)活動の主催者及び参加者

「視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ」(任意団体)が主催者となり、各文化施設の協力のもとワークショップを開催します。地域住民はもちろん、都内近郊の様々な地域から参加者を募ります。今後は近隣の特別支援学校との連携を目指し、多様なニーズを持つ子ども達の受け入れを目指します。

(3)活動を実現するための方法

・主催メンバー(5名)が中心となり美術館(その他施設)への下見を重ねながらワークショップのプログラムを企画検討します。

当該の美術館や施設への協力をあおぎ、事前の打ち合わせを経てワークショップを実施します。毎回のワークショップ実施後には必ずアンケートを実施し、ご意見や感想を次のワークショップのプログラムに反映し、よりシンプルに誰でもが参加出来るプログラムを開発します。

(4)時期

2013年5月から2014年1月まで毎月一回開催。

(5)場所

- ・ 横浜美術館
- ・ カップヌードルミュージアム
- ・ 原鉄道模型博物館

(6)当地区で活動を行う理由

- ・これまで障害者の受け入れについて独自の取り組みを続けてきた横浜美術館があるということ。
- ・横浜美術館をはじめとする文化施設との連携をより密にはかりたい。
- ・市全体として多様な価値観を受け入れるハード面の体制が整っていること。都心からのアクセスが良く、誰でも気軽に訪れることができる。

(7)エリアマネジメントの効果

- ・みなとみらい地域に住む視覚障害者にとって美術や文化に触れる機会を作り出します。
- ・地域における視覚障害者と晴眼者の相互理解に貢献します。
- ・美術館をはじめとする地域が持つ文化的な因子を楽しみながら鑑賞することで新たな魅力や可能性を発見することが出来ます。

(8)その他、特徴やアピールする点

鑑賞ワークショップでは参加者の言葉を引き出す役割として視覚障害者のスタッフがナビゲーターを務めます。このことにより健常者から障害者への一方的なサポート関係ではなく全ての人が主体的にアクションを起こせる場をつくります。

収支予算書

グループ名 視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ

1 収入（自己資金や他の助成金などを記入してください。）

項目	金額	説明（負担者及び負担方法等）
助成金（A）	297,600	
参加費	63,000	各ワークショップの参加費×126人分（各回の定員14名）
自己資金	11,400	自己資金
合計（B）	372,000	(B) ≥ (C)

2 支出（助成金対象経費分）

項目	数量 (単位)	単価	金額	説明
人件費	10	10,000	100,000	アルバイト日当×1人×10日
交通費	4	20,000	80,000	運営スタッフ交通費1年分
チラシデザイン委託費	4	30,000	120,000	チラシデザイン費×4回
チラシ印刷費	3000部	4	12,000	各ワークショップ開催時に約300枚配る。
事務用品費	1	20,000	20,000	プリンタインク、ペン、用紙等の事務用品費1年分。
活動報告書デザイン委託費	1	40,000	40,000	1年間の活動を冊子としてまとめる。デザイン・校正費。
合計（C）			372,000	【Aコース】(C) ≥ (A) 【Bコース】(C) ×4/5 ≥ (A)



「視覚障害者とつくる美術鑑賞ワークショップ」活動実績

言葉による美術鑑賞ワークショップ開催実績

毎月1回、都内近郊の美術館を中心に開催しています。

2012年	7月21日	横浜美術館 参加者：5名	10月21日	世田谷美術館 参加者：13名
	8月19日	横浜美術館 参加者：8名	11月11日	横浜美術館 参加者：11名
	9月30日	世田谷美術館 参加者：13名	12月9日	横浜美術館 参加者：9名
2013年	1月20日	東京都現代美術館 参加者：15名	全8回 合計参加者数：155名 ※各回のナビゲーターの人数は含みません。	
	1月26日・27日	夢の島熱帯植物館 参加者：81名		



創作ワークショップ開催実績

全盲の美術作家の光島貴之さんの個展関連企画として開催しました。音や言葉からイメージを膨らませ、様々な素材を組み合わせながら作品を作るワークショップ。当日の進行を視覚障害者のスタッフが務めました。

2012年9月2日	A/A gallery 参加者：18名
2012年9月9日	A/A gallery 参加者：20名

全2回の合計参加者数：38名
※各回の進行役の人数は含みません。





- ①
最寄り駅に集合し、みんなで美術館等へ
向かいます。



- ②
輪になりお互い自己紹介します。
ここで2チームに別れます。



- ③
視覚障害者のナビゲーターとともに言葉
を交わしながら作品を鑑賞します。



- ④
ときには体を動かしながら、作品の大き
さや形を体感します。



- ⑤
2時間の鑑賞が終わったら解散します。